



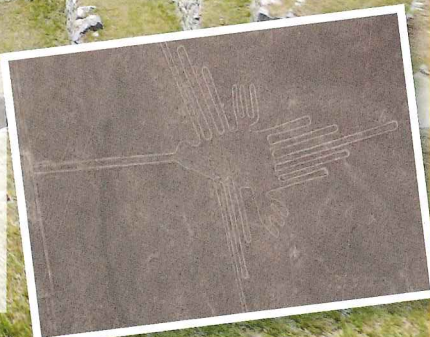
# マチュピチュと ナスカの地上絵

International Academic Conference "Machu Picchu and Nasca Lines: New Researches for World Heritages in the Andes"

## 最新調査からみた世界遺産



この国際学術講演会では、古代アンデス文明を代表する二つの世界遺産であるナスカの地上絵とマチュピチュを取り上げる。両者ともにメディアによってつくられたイメージによって「ミステリー」として扱われることも多く、その学術的な意味が広く知られているとはいいがたい。その一方で21世紀に入って以降、双方において最新の手法を用いた調査が進められている。アメリカ合衆国イェール大学のリチャード・バーガー教授とルーシー・サラサル研究員は現地クスコ大学との協力関係の下マチュピチュ出土遺物の理化学的分析を進めており、これまでの定説を覆す論を展開している。一方で日本では山形大学の坂井正人教授を中心とした学際的なチームが、新たな地上絵を数多く登録し、その役割に関する新たな仮説を提示した。本公演はこのような研究成果の現時点における到達点をわかりやすく提示することをその目的としている。

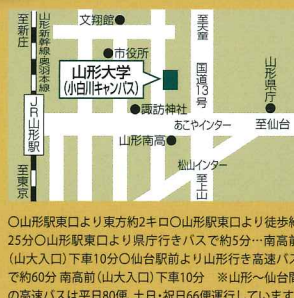


2019年 **3月16日** [土] 13:00~16:05

山形大学人文社会科学部1号館 3階 301教室

使用言語: 日本語・英語(通訳あり)

一般公開(参加無料/申し込み不要/定員:200名[先着順])



○山形駅東口より東方約2キロ○山形駅東口より徒歩約25分○山形駅東口より県庁行きバスで約5分…南高前(山大入口)下車10分○仙台駅前より山形行き高速バスで約60分 南高前(山大入口)下車10分 ※山形~仙台間の高速バスは平日8便、土日・祝日6便運行しています。

◆ **Richard L. Burger** (イェール大学教授)  
「理化学的手法で明らかとなったマチュピチュの日常生活」

◆ **Lucy C. Salazar** (イェール大学研究員)  
「マチュ・ピチュ: 調査の歴史と新たな解釈」



◆ **坂井 正人**  
(山形大学教授)  
「山形大学のナスカ研究: 学際的アプローチによる最新成果」



〈主催〉科学研究費補助金新学術領域研究「古代アメリカの比較文明論」計画研究 A03「アンデス比較文明論」(研究代表者: 坂井正人)、科学研究費補助金基盤研究(A)「アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築」(研究代表者: 関雄二)、山形大学ナスカ研究所  
〈共催〉山形大学、国立民族学博物館 (協力) 古代アメリカ学会